
《閻太》嘔吐き《転生》

天狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《閻太》嘘吐き《転生》

【Nコード】

N63650

【作者名】

天狼

【あらすじ】

仲が悪い閻魔と太子が書きたかったんです……。

（前書き）

ただ、仲の悪い閻魔と太子です。

閻魔の片思い。

これで、鬼男君が閻魔を好きだと、私がたぎる
↑

「この変態大王イカ。」

俺が目の前に現れたとたん、彼は言った。

「えー…なんか、えらく辛辣だな。」

呼び出されたから、遠路遥々わざわざ来てやったのに。

「当然だろう？これじゃ、話が違うじゃないか。」

彼は…否、太子が転生した姿なのだから事実上、太子であるから太子でいつか。

太子は怒っていた。ひどく、怒っていた。

「なに怒ってんだよ？」

「怒りもするでおま！」

あ、口調転生前と変わってない。

太子は、俺を睨みつけると、ふんっ、とそっぽを向いてしまった。

「えー…。俺、なにかした？」

「何かしたんじゃない。何もしなかったんだ。」

「？」

太子が言いたいことは、なんとなく解ったが、あえて解らないふりをしてみた。

「惚けるのか!？」

太子は、机をバンツと叩くと再び俺を睨みつける。

「だから、なんのこと？」

太子は大きいため息をつき、小さな声で言った。

「妹子と同じ時代、同じ場所に転生させてくれるって言ったのに…。」

「

「ああ。」

やつぱり。妹子ちゃんのことか。

「ああ。じゃないっ！嘔吐き！変態セーラー野郎！」

「変態もセーラーも関係ないだろうっ!!」

「お前がお前である限り関係あるわい！」

「なんだよそれ！？意味わかんねえし！そんな事言ったら、お前なんかカレー大好きジャージ野郎じゃん！！転生してもまだ青ジャージかよ！！」

太子は転生した今も、青ジャージを着ている。

「青ジャージの何が悪い！！」

「どうせまだ、パンツもはかない主義なんだろう！！」

「何が悪い！！」

……。

「…え？…まじ？」

「何が悪い！！」

「いや…。別に。」

太子は俺をじつと見つめると、太子なりの精一杯ドスの利いた声音で「どうして、約束を守らなかった。」と言った。

俺も精一杯ドスの利いた声音で言った。

「約束は守った。妹子ちゃんはこの時代のここにいる。」

「じゃあ！！どうしてなんだ！？どうして私は妹子に逢えない？」俺はため息をついた。

「それは、お前と妹子ちゃんの運命が繋がってないから。それが、お前の努力不足だよ、太子。」

「そんな…。」

太子はシユンとしてしまった。「残念だったね、太子。わざわざ男の俺とキスまでして妹子ちゃんと同じ所に転生したのにね。」

「五月蠅い！！」

と言うのは、結構前の閻魔庁での出来事だ。その日も太子は天国から、俺の仕事場の閻魔庁に来ていた。

「私は、妹子と同じ所に転生したい。」

「だーかーらー、いつも言ってるでしょ。そういう個人の希望は聞

けないの！！」

「そこを何とかするのも、閻魔の仕事だろ！！」

「ちげーよ。バーカ。」

「バカって言うな！私は妹子と同じ所に転生したいんだ。」

「しらねーよ、そんなこと。」

「頼むよ、閻魔っ！」

太子はなんか変なポーズをとっていた。ただ、頭を下げ頼んでいるのは解った。

「だったらさあ、俺とキスしてよ。してくれたら、望み通りにしてあげる。」

太子は顔を上げ、目を見開いていた。

「は？何言って…。」

「さあ、どうする？」

「どうするも、こうするも…。悪い冗談はやめるでおま。」

「冗談だと思うの？」

「っ…。」

言葉に詰まった太子はただ目を泳がせていたが、暫くすると、「約束だからな。絶対だからな。」

と言って目を閉じた。

「解ってるよ。」

俺は太子を抱きしめて、

「いただきます。」

と言い、唇を重ねた。

長い長いキスだった。

「太子、妹子ちゃん探して欲しい？」

「当たり前だろう！？」

ふーん。当たり前なんだ。初耳。

「だったらさ、次は、抱かせてよ。」

「断る。」

「わーお。即答。」

「そんな事するぐらいなら、妹子は自分で探す。」
「そんな事、ねえ。」

「あ、そ。じゃあ、俺帰るわ。仕事しないと、鬼男君怖いし。……
その気になったらいつでも呼んで。」

「一生ならない!!」

俺は太子に手を振り、閻魔庁のある黄泉の国へ帰った。

「あなたも、いい性格してますよね。」

仕事中に鬼男君が話し掛けてきた。珍しい事もあるものだ。

「なんで？」

俺は鬼男君に笑いかける。

「だってほら。」

鬼男君は天国にいる魂のリストの内、ひとりの男の名を指差す。

「あれ、鬼男君。よく気付いたたね。」

鬼男君の指の先には、「小野妹子」と記されていた。

「彼との約束、違えてもいいんですか？彼、まだ小野君の事現世で探してるみたいですけど。」

「いーのいーの。だって……。」

この先は言わないことにした。

「だって…何ですか？」

鬼男君は怪訝な顔をした。

「んー。うふふー。な・い・しよ。」

「きもっ……。」

「あーっ。鬼男君酷い!!」

だって、太子と妹子ちゃんがイチャイチャしてるのをここから見続けるのは、もう辛いから。なんて女々しい事、恥ずかしくて言えるわけじゃないじゃないか。

（後書き）

面白くなかったですが、そうですか。
すみません（^^ゞ

もっと、上手く書けるようになりたいです。
精進しますッ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6365o/>

《閻太》嘔吐き《転生》

2010年11月1日04時24分発行